

みんなのお場

届いたお手紙から
みんなのおたより紹介



震災の日お世話になった方々

ありがとう

私は震災の日、所用で旧
中新田町を車で走行中地震
に遭遇しました。

ラジオが、「津波が来るの
で高台へ避難するように」
と何度も言っています。宮

城県には10分の津波が来る
と聞き、家が流されるので
はとすぐ帰路につきました。
た。しかし、道路に段差があ
ったり、電柱等が倒れてい
たりで迂回をしているうち
に、渋滞のせいもあって登
米で暗くなり、柳津方面へ
は全然進みません。
なんとかたどり着いた場
所で河北町への別ルート、
豊里側を通る道路を教えて
もらいました。ところが、山
あいの道がアイスバーンと
気付かず、ハンドルをとら
れ、ガードレールに衝突し
てしまいました。エンジンは
動かさなくなり、ライント
もつかず、途方に暮れて

いたところ、通りかかった
方々のお世話になり、車を
安全な空き地に置くことが
できました。
そこから何台かの車に乗
り継ぎ、大川谷地(大川中
学校の辺り)に着いたのが
夜の9時でした。間垣の堤
防が決壊し、雄勝、釜谷長
方面の方々の車が並んでい
ました。家に行こうとして
も一面が水で行けません。
車で送ってくれた方々、ま
た一夜車に乗せ、暖を与え
てくれた方々、ろくにお礼も
言えませんでした。改めて
心から「ありがとう」を
申し上げます。
(浮津)

一日も早い復興常にかかっています

キラッとパチリ



市役所には、復興業務の
サポートとして、市外から応
援に来ていただいている長期
派遣職員の方々が62人います
(5月1日現在)。今回は震
災復興部基盤整備課で平成
24年4月から業務に従事さ
れている、秋田市から派遣の
大野英さんと、新潟市から
派遣の樋浦靖弘さんを紹介

します。
※ ※
施設計画グループに所属
する大野さんは、被災地で土
木関係に携わる人材が少な
いという現状を新聞で知り、
復興の力になりたいと派遣
を志望しました。
1年目は各機関との調整
もあり、復興事業の大変さ



基盤整備課

大野英さん 42歳
秋田市から派遣



基盤整備課

樋浦靖弘さん 26歳
新潟市から派遣

を感じたと言います。その中
でも大野さんは「一日も早い
復興を望む市民の皆さんの
気持ちを受け止めて仕事に
取り組むよう、常に心がけて
います」と話しています。
市街地再開発グループの
樋浦さんもスピード感ある
復興を常に意識しながら仕
事に当たってきました。誰
が見てもわかりやすいもの
を作るをモットーに「市民の
皆さんが目に見えて復興を
実感できるよう、全力を傾け
ていきたい」と語ります。
大野さんは本年9月末、
樋浦さんは来年3月末で任
期を終える予定です。大野
さんは「残された時間を石
巻市民の皆さんのために使
い、一つでも多くの計画を具
体化したいです」と決意を述
べ、樋浦さんは「石巻市の復
興事業に拍車がかかるよう、
さらに頑張っていきたいと思
います」と意気込みを見せて
くれました。

石巻なごみ伝心板



第六回「なんとかなる」

未知の物事に挑戦する時、あ
るいは勢いをつけるための掛
け声にも使われるこの「なんと
かなる」。猫は緊張すると爪を
立てます。この猫も決して横着
に生きているわけではなく、内
心はドキドキしているのです。
しかし、なんとかなって来たか
ら現在(いま)がある。次もきつ
となんとかなるに違いない!
さりげないこの言葉にはと
びっきりのパワーとエネルギー
が潜んでいます。日々、行く手
を立ち塞ぐどうにもならない
ときこそ、「なんとかなる!」です。

南 久美子
(遊墨漫画家 京都府出身・在住)

◆投稿募集

皆さんからの投稿をお待ちしています。テーマに沿ったあなたのとおきのお話をお寄せください。

- テーマ 「ありがとう」
日常生活の中で、皆さんの「ありがとう」に関する逸話(エピソード)をお聞かせください。
- 字数 400字以内
- 投稿方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記し郵送またはEメールにて秘書広報課までにお送りください。掲載の場合はペンネームを可能としますので、ペンネーム希望の場合はその旨明記してください。
- 注意事項 公序良俗に反するもの等やスペースの関係上、投稿いただいたもの全てを掲載できるものではありません。また、字数等の関係で内容を調整させていただくことがあります。
- 問 秘書広報課(内線4025)
〒986-8501(住所不要)
Eメール ispubinfo@city.ishinomaki.lg.jp

まちの話題



石巻地区

5月5日(日)
石巻地区

日台友好のアートが完成

絵画で飾った家型のオブジェ「白屋」が中瀬に完成しました。芸術家集団「新台湾壁画隊」と日本人アーティスト、それに市民による「石巻・台湾アートプロジェクト」が4月下旬から制作してきたもので、震災被災地へエールを送る作品40点を張って作りました。

白屋周囲には、子どもたち等市民が思い思いのイラストやメッセージを記したストーンアートも置きました。オブジェは中瀬に最大3カ月間展示されています。

石巻地区

4月29日(月)・30日(火)
湊小学校

イタリアから心の支援 地元小学生と交流深める



日伊友好団が石巻地方を訪れ、湊小学校児童との交流会に臨みました。ジャンニ・テルツィローリーさんを団長とする友好団は、東日本大震災で被災した石巻地方を気遣い、これまでイタリアの子どもたちの絵やサッカーユニフォーム等の支援をしてきました。今回は直接被災地の現状を知りたいとの思いから初めて来日し、サン・ファンパーク等市内を視察しました。湊小学校の交流会では、イタリア語講座等で親ばくを深めました。